

第6学年実践事例 「新しい時代の幕開け ～土佐の先人 坂本龍馬～」 からの抜粋

単元名 新しい時代の幕開け ～土佐の先人 坂本龍馬～

単元について

・自ら学びを深め合う授業をめざして

本校の研究テーマである「自ら学ぶ子の育成」～自ら考え、学びを深め合う授業づくり～に向け、5年生までに考えを持つ、書く、伝える、さらに考えを深めることをサイクルとして友達との話し合いの中で考えを深め合う授業づくりに取り組んできた。授業においては、問題解決的な学習（つかむ・見つける 調べる・考える まとめる・広げる）を取り入れ、児童たちの疑問から課題設定をし、教科書、資料集、見学、個人で集めた資料など様々な情報から、課題解決ができるように取り組んできた。そして、6年生ではそれを受けて目指す児童像を「資料や社会事象の中から関心や疑問を持ち、自ら課題を設定できる子」「課題に対して、自分の意見や考えを持てる子」「課題解決に向けて、適切な手段で調べることができる子」「友達とのかかわりの中で自分の考えを深め、新たな気付きや課題を持てる子」とした。その児童像に迫るための具体的な支援としては、以下の3点「児童の思いから課題を設定し、課題意識を高める。」「自分の考えの根拠となるものを明確に示しながら過去と今をつなげた歴史学習を進める。」「児童の思いや考えを大切にするために座席表を活用する。」を重点項目とした。そして、本単元では、特に「課題解決に対して、自分の意見や考えを持てる子」「友達とのかかわりの中で自分の考えを深め、新たな気付きや課題を持てる子」を育てたいと考えた。

本時の指導では、龍馬が1867年6月に藩船夕顔の中で作った「船中八策」を取り上げる。船中八策は倒幕後の新しい日本の体制を8項目に龍馬がまとめたものである。龍馬が生きてきた33年間の考えや思いが集約されており、これが明治政府の五か条の御誓文へとつながっていく。そこで本時は、

単元の目標

幕末から明治維新にかけての歴史的な事象や背景を知り、新しい時代をつくるために活躍した先人にたちの活躍と願いについて関心を持ち、意欲的に調べる。

明治政府ができ、西洋の文化を取り入れながら国の仕組みを整えていったことを調べ、産業の発展や憲法の制定などの近代化を進めていった経緯や目的を理解する。

学習指導計画・評価計画（全11時間）

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・判断・表現
 < >内・・・評価の方法 観察・資料活用・表現 知識・理解 ・子どもの予想

時	目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価・方法
課題をつかむ・予想する	日本に黒船が来航したことにより、鎖国が終わり欧米諸国との交易が始まったことをつかむ	<p>あなたは開国に賛成？それとも反対？</p> <p>黒船来航の資料を読み取り、黒船によって日本が影響を受けた内容をつかむ。</p> <p><賛成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎖国が終わり、様々な情報を入手することができたから。 ・身分制度がなくなるきっかけになったから。 <p><反対></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国をしても日本は不平等な条約を押し付けられて外国とは対等ではなかったから。 	黒船来航の絵図から当時の人々の気持ちを考えることができる。<ワークシート> 黒船来航がきっかけで日本が開国し不平等条約を結んだことを知るることができる。<ワークシート>

	黒船の来航や幕府の力の弱まりなど等幕末の日本の様子について資料を活用しながらつかむことができる。	<p>約260年間も続いた江戸幕府は、なぜ滅んだのだろうか。</p> <p>江戸時代の学習を振り返り、幕末の動きをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船が突然現れたことがきっかけかな。 ・龍馬はどうやって幕府を倒したのかな。 ・新しい政府はどんな政府なんだろう。 <p>新しい政府はどのようにつくられ、日本はどのように変わっていくのだろうか。</p>	<p>倒幕に至った理由を、資料を活用しながら考えることができる。<ワークシート ></p> <p>資料集、副読本などから江戸幕府が滅んだ理由を調べることができる。<態度・ワークシート ></p>
調べる・追究する	龍馬が薩長同盟を結ばせた理由や方法を探り、薩長同盟がその後の国策に影響を与えたことを理解する。	<p>龍馬はどのようにして薩長同盟を結ばせたのだろうか。</p> <p>当時大きな勢力を持っていた薩摩藩と長州藩を説得し、手を結ばせた背景を探り薩長同盟の持つ意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍馬はどうやって説得したのかな。 	<p>薩長同盟がどのように結ばれたのか知り、龍馬の果たした役割を考えることができる。<ワークシート ></p>

指導の実際

【第1・2時】学習問題をつかむ

導入は、幕末のペリー来航時の授業からはじめた。黒船を見た時の一般民衆の立場、龍馬の立場、幕府の立場をそれぞれ想像し、自分だったら開国に賛成か反対かを話し合った。

<p>開国に賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国から進んだ技術を取り入れることができる。 ・このままでは外国からどんどん技術が遅れてしまっていて差が開いてしまう。 ・外国と貿易をすることで利益を得ることができる。 	<p>開国に反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国をしたら日本は技術などが遅れているから外国の言いなりになってしまうのではないか。 ・日本の文化が失われる。 ・平等な条約ならいいけど、不平等な条約は日本に不利になると思う。
--	--

まず児童は、黒船の来航や幕府の力の弱まりなど、幕末の日本の様子から江戸幕府がなぜ滅んだのかを調べた。そのうちに、倒幕運動に土佐藩が大きくかかわっていたことやそこに坂本龍馬の活躍があったことを知った。そこで、龍馬が日本を変えようとした理由やどのような方法で龍馬が幕府を倒したのかを調べていくことにした。龍馬のことを調べていくために『坂本龍馬を知っちゃう?』という副読本を使って学習を進めることにした。そして、坂本龍馬についてどんな一生を送りどんな人物だったのかを知るために、ゲストティーチャーに来ていただいた。さらに、児童から龍馬についてもっと詳しく知りたいという声があがり、「龍馬の生まれた町記念館」見学に行った。

【第3・4・5時】調べる・考える

龍馬が薩長同盟を結ばせた理由やその方法を調べた。その際には、龍馬が興した<亀山社中>が活躍したことも合わせて学習していった。龍馬は失敗してもあきらめずに薩摩と長州を説得していったことなど、龍馬の日本を変えたかったという強い思いを感じることができた。次時には、